

教育大綱 基本方針―I

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

関中学校区 研究主題

自他の尊厳や多様な価値観を認め、共に学び、主体的に行動する児童・生徒の育成

1. 学校教育目標

「豊かな心を持ち、進んで行動する生徒の育成」

2. 研究主題

「かけがえのない自分に自信をもち、
互いの良さを認めあい、つながり高まりあえる生徒の育成」
～ 一人ひとりが生き生きと学び、議論を深める授業づくり ～

3. 研究主題設定の理由

①生徒の実態

本校は、各学年2学級と小規模の学校であり、生徒たちは豊かな自然とふれあう経験や昔の「まちなみ」を中心とする文化に触れる経験を経て入学している。素直で、「学校へ行くのが楽しい」という生徒が多く、その割合は全国的にみても高い。その反面、「TVの視聴時間・ゲームやスマートフォンにかかる時間」の長さは課題であり、生活リズムの維持や健康への影響とともに、家庭学習習慣の定着にとっても大きな妨げとなっている。学習に関しては、授業に前向きに取り組める生徒は多いが、学習内容の定着に関しては個人差が大きい。また、小学校までに一度構築された人間関係から脱却しにくく、表面的には気にしているが、今までの関係を壊したくなくて行動できなかったり、うまく関われなかったりという様子が見られた。その結果、学校に来にくくなったり、不登校になったりする生徒もいた。さらに、4年にもわたるコロナ禍の影響もあり、対面での話し合い活動や協力しながらの活動が制限されたり、マスクにより相手の表情が読み取れなかったりして、心を開いて自分の思いを伝えることが難しい状況にあった。しかし、そのような制限が緩和されつつある今、これら生徒の実態をふまえ、さまざまな教育活動を実施していきたいと考えている。具体的には、生徒一人ひとりが授業の中で自分の考えを表現し、他の人の考えを受け止め、さらに自分の意見をつなげ、議論を深めていく。そのような活動を

通じて、互いの理解を深める仲間づくりや学級づくりを進めていきたい。そして、生徒一人ひとりの学びを保障するために学習規律、学習環境等を整え、補充学習で基礎的あるいは発展的な学びを支え、授業づくりにおいて毎時の授業の質的向上を図ることを目指していく。

②これまでの取り組み、これまでの成果・課題

【成果】

- ・めあてを授業の序盤で示し、見通しをもって取り組ませることができた。迷った時は、目標やめあてに立ち返り、授業の内容が目標やめあての達成に向かっているかを問い直せた。また、めあてと相対したふりかえりを設定し、めあてが達成されたかどうかを教師・生徒が確認できるようにした。
- ・公開授業を行うにあたって、研修委員会では指導案の形式を検討・提案し、それに沿って指導案を作成することができた。また、学年団や教科部会、研修委員会が中心となって指導案検討を行い、指導者の思いや学級の様子等を確認しながら検討することができた。そのため、より生徒の実態に即した公開授業を行うことができた。視点生徒を核に据えた仲間づくりや授業づくりの視点が高められた。
- ・タブレットの活用については、支援が必要な生徒にとって有効に働き、結果、他の生徒にとっても、発表がスムーズに進んだり、みんなの意見に触れることができたりした。授業の中でのより良い活用方法について積極的に考えられるようになった。
- ・落ち着いて授業が受けられる環境を整えることができた。リモートでも授業に参加できるように配慮し、自宅や別室からも授業に参加できる形を作ることができた。
- ・質問タイムや夏休み中の補充学習を通して、少しずつ学習に取り組む姿勢を育てることができた。

【今後の課題】

- ・生徒の議論する力が弱く、対話から生まれる深まりが十分に得られない。生徒は、自分の意見は整理できていれば話すことができるが、他からの意見に対して疑問を伝えたり、切り返したりする力が弱い。「なぜ」「どうして」を言葉にさせることが自分の気持ちを発信する力になるので、それが引き出せるような、教師からの効果的な「問い返し」「切り返し」「揺さぶり」が日頃から大切である。また、生徒たちが意見を交流しながら問題を解決できるような課題の設定を行う必要がある。
- ・話し合い活動の中で「無難」で具体性が少ない意見が多く、自分の素直な思いや考えを出したり、生徒同士で本音を語り合ったりといった場面までは多く見られるわけではなく、「自分を表現する」というところまで高まっているとはいえない。
- ・タブレットのより効果的な活用を研究していく必要がある。
- ・生徒が、自分自身の課題に応じた家庭学習に粘り強く取り組めるように、効果的な助言ができるような手立てについて検討を重ねる必要がある。タブレット持ち帰り学習の工夫も必要である。
- ・定期テスト前の質問タイムが自習する場になっている。授業中や家庭学習で分からなかった問題を質問する場になるように、質問タイムの取り組み方を改善する必要がある。

4. 研究主題について

「一人ひとり」が「生き生きと」学ぶためには、「生徒が受ける授業」「生徒が参加する授業」ではなく、「生徒がつくりあげる授業」を目指し、生徒が主体となって、互いに対話を進めながらつくりあげる授業の実践を主眼におき、研究主題を「かけがえのない自分に自信をもち、互いの良さを認めあい、つながり高まりあえる生徒の育成」と設定した。また、副主題に「一人ひとりが生き生きと学び、議論を深める授業づくり」と設定し、これまでの取り組みをさらに深めている。

授業規律が保たれ、落ち着いた環境のなかで生徒は真面目に座って学習に取り組んでいる。だからこそ、自分の思いを表現し、生徒と生徒とが活発に意見交換して議論を深め、その結果、授業の「めあて」に迫れるような姿を望ましい姿と捉え、「つながり高まりあえる」生徒を育成したい。

《主題》《校区の研究主題も内容は共通》

◇かけがえのない自分に自信をもち

⇒自己肯定感が高まった状態。失敗をおそれず授業中に自信をもって意見を言える。

◇互いの良さを認めあい

⇒自分の意見をもちながらも、他人の意見にしっかり耳を傾け、その考えを謙虚に採り入れることができる。

◇つながり高まりあえる

⇒指導者を介さない状態でも活発に意見を交換でき、「わからない」生徒を支援したり、自分の考えを深化させたりできる。

《副主題》

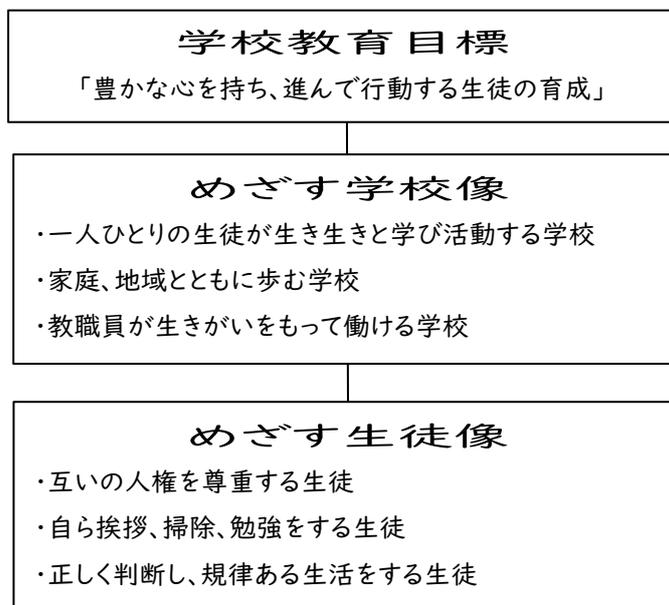
◇一人ひとりが生き生きと学び、議論を深める

⇒全員が参加できる。全員が意見をもてる。全員が「めあて」をもとに、「考えたい」「意見交換したい」という意欲をもって議論し、「めあて」に対する答えに迫るべく考えを深められる。

5. 研究領域

全教科・全領域

6. 研究構想図



研究主題

「かけがえのない自分に自信をもち、
互いの良さを認めあい、つながり高まりあえる生徒の育成」
～ 一人ひとりが生き生きと学び、議論を深める授業づくり ～

研究の重点

- ・対話の中から物事を多面的・多角的に考え、考えを深める授業づくりを進める。
- ・一人ひとりがしっかりと自分の意見を持ったり、他の人の思いを受け止めたりできること、また自分たちで課題に気づき、表現力・発信力を持って課題解決に向けて話し合える「議論する授業」を目指す。

7. 具体的な取り組み

①【子どもたちの表現力・発信力の育成】

- ・自分の思いを伝えたり、仲間の思いを受け止めたりする力の育成
- ・自己肯定感が高まり、仲間のことを尊重できる生徒の育成
- ・対話から生まれる深い学び
- ・伝えたい相手を想定した話し方のスキルの育成
- ・生徒が本音を語り、教師も本音を語る

②【授業づくり】

- ・ペア学習やグループ学習で、生徒が主体となり、互いに対話を進めながら議論を深める授業
- ・生徒たちが意見を交流しながら問題を解決できるような課題の設定
- ・ペア学習やグループ学習の中の「話し合いのルール」を設定
- ・「思考のスイッチ」が入るような導入の工夫（ICT 機器の活用も含む）
- ・効果的な「めあて」「ふりかえり」の設定
- ・魅力的な「謎」の提示。「問い返し」「切り返し」「揺さぶり」
- ・様々な学び（教科横断的な学びも含む）がつながり、考えが深まる授業
- ・授業改善につながる適切な評価、分析（単元テスト・定期テスト等、学調・みえスタの分析も含む）

③【学習のベース】

- ・仲間づくり・学級づくり（生徒理解 反差別でつながる仲間 QU やアンケート等も含む）
- ・授業規律
- ・学習環境づくり（ICT 機器の利用や居場所づくり、不登校対応等も含む、）
- ・基礎の徹底（家庭学習、自主学習、読書活動、朝学習・朝読書、質問タイム、夏休み中の補充学習、Spelling Contest や漢字相撲などのスペシャルコンテスト）
- ・SKRA 運動（掃除、聞く、ルール、あいさつをしっかりとる生徒会の取り組み）